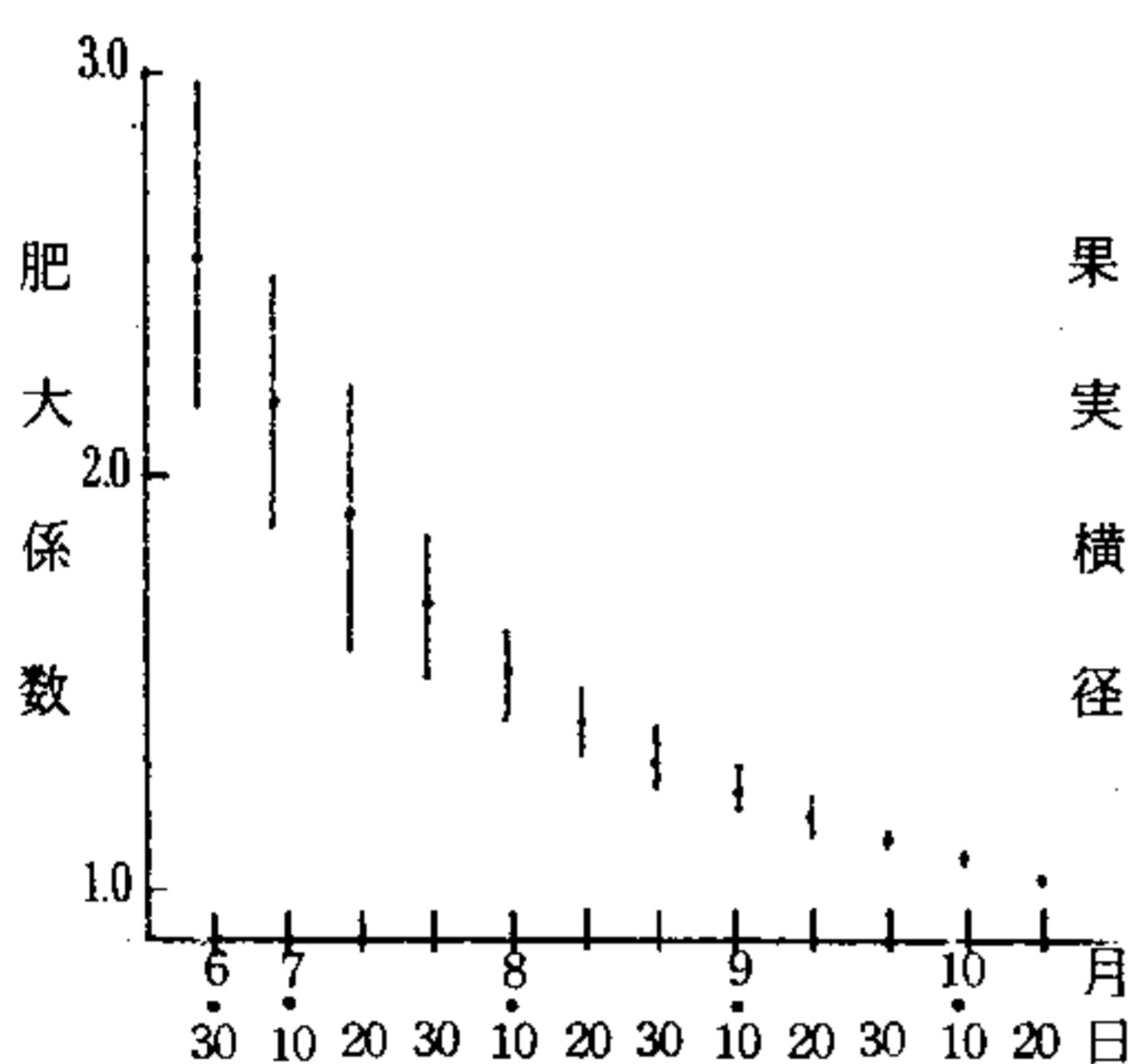
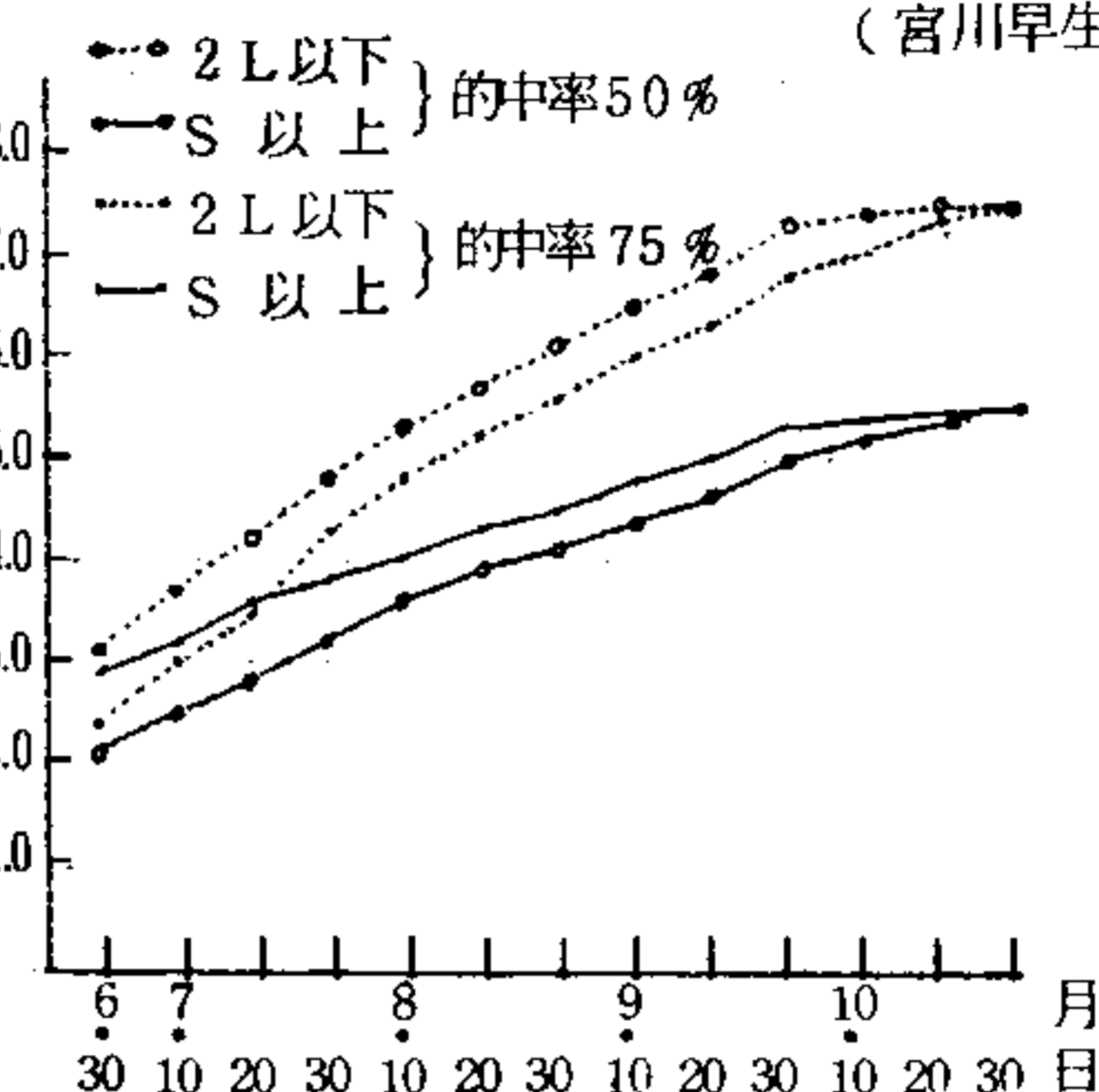
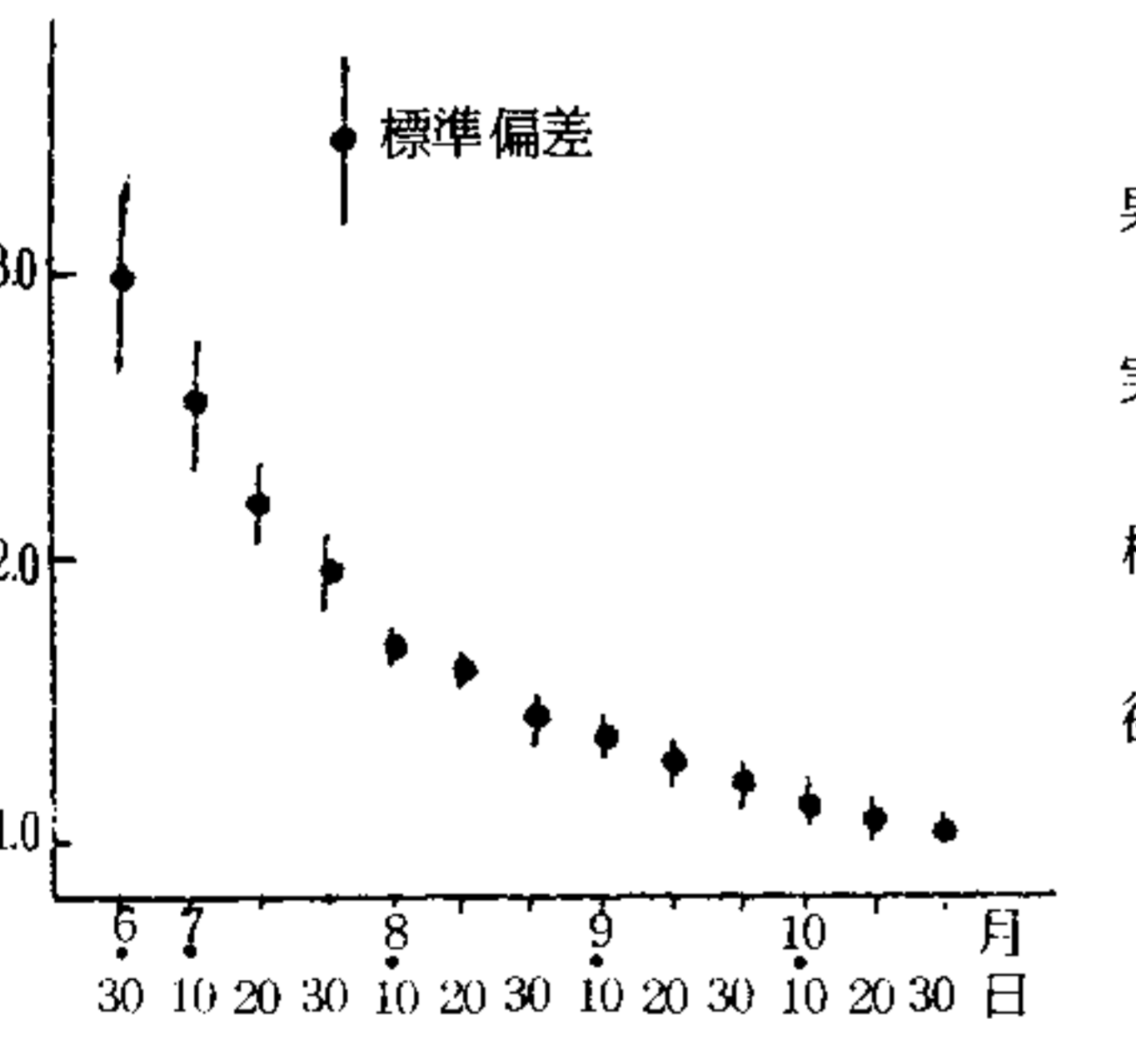
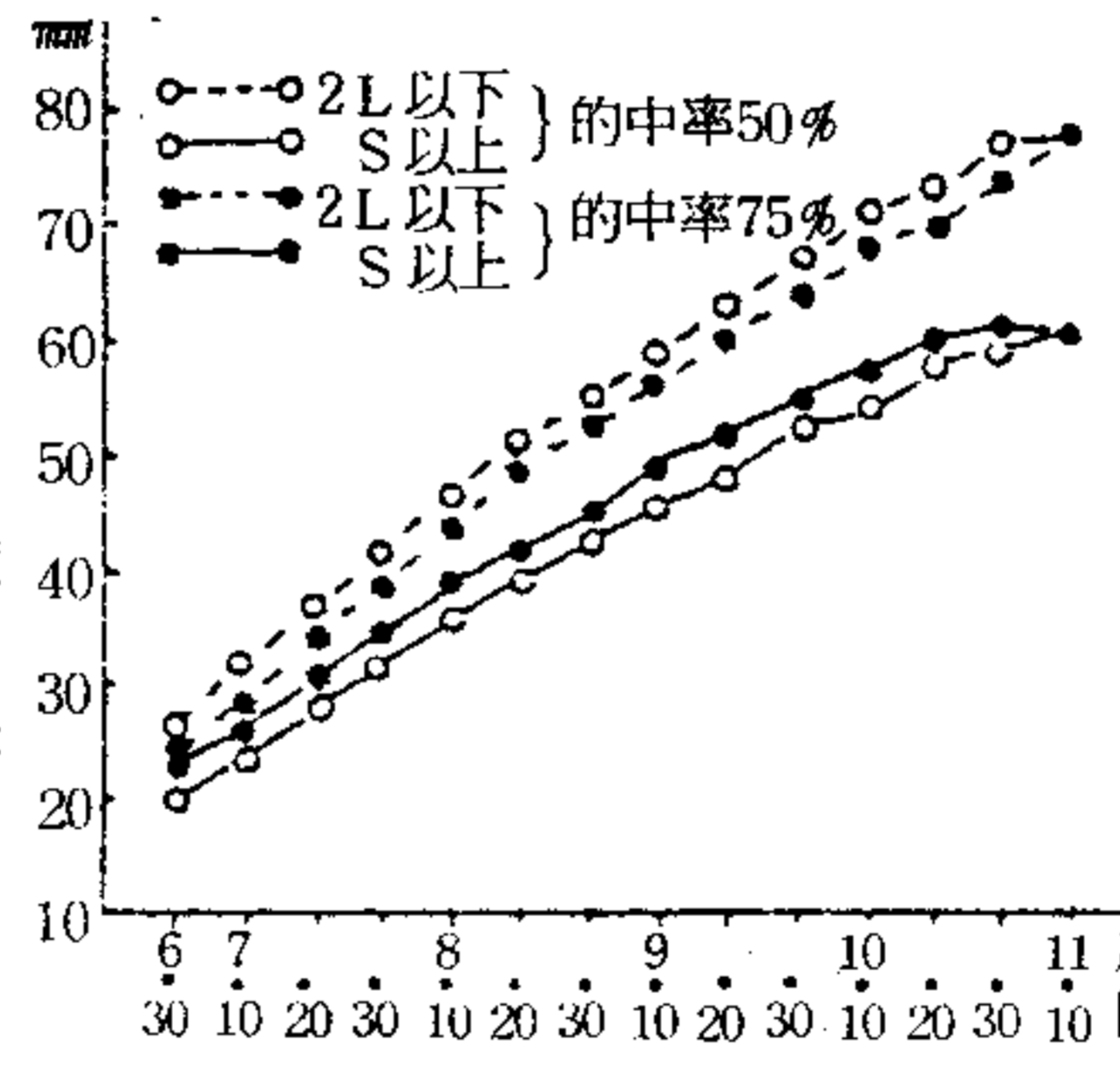


課題名	温州みかんの肥大係数を利用した摘果
要約	収穫時にS級～2L級の果実にするため、75%の的中率で肥大係数を摘果に利用する場合、宮川早生では7月30日以降にならないと適用できない。
成績概要	<p>1. 肥大係数の標準偏差は、果実発育の前期で大きく、遅くなるにつれて小さくなった。</p> <p>2. 宮川早生と林系では、宮川早生の方が標準偏差が大きい傾向にあった。</p> <p>3. 収穫時にS、2L級の果実になると予測される果実の横径は、果実発育の前期はその幅が小さかった。</p> <p>4. このことは果実発育前期は一定範囲内の横径のそろった果実を残さなければならないことを示している。</p> <p>5. 75%の適中率で肥大係数を摘果に利用する場合、宮川早生では7月30日以降にならないと適用できない。</p> <p>第1図：果実横径の肥大係数と標準偏差(宮川早生) 第2図：2L, L級規格果実の肥大曲線(宮川早生)</p>   <p>第3図 果実横径の肥大係数と標準偏差(林系) 第4図 2L, S級規格果実の肥大曲線(林系)</p>  
留意点	開花時期、収穫時期によって肥大係数に若干のズレが生ずるので修正が必要である。